

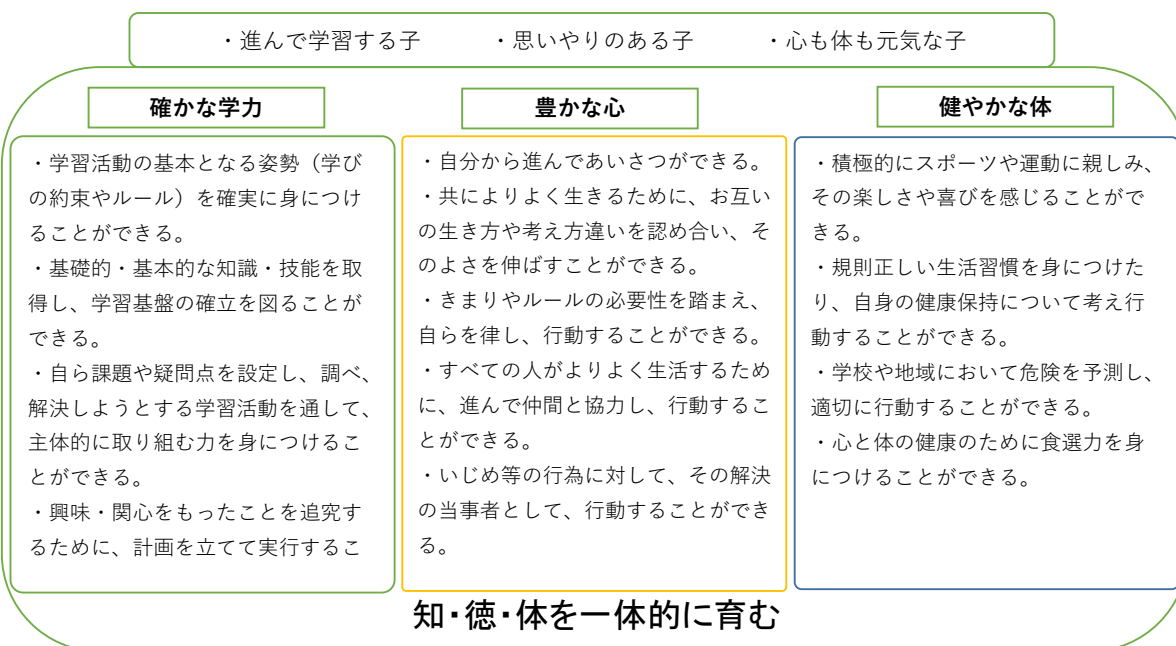
## ○京都市の目指す子ども像

伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を創造する子ども  
「誰一人取り残さないという確固たる信念」「未来社会の創り手となる子どもを育む」

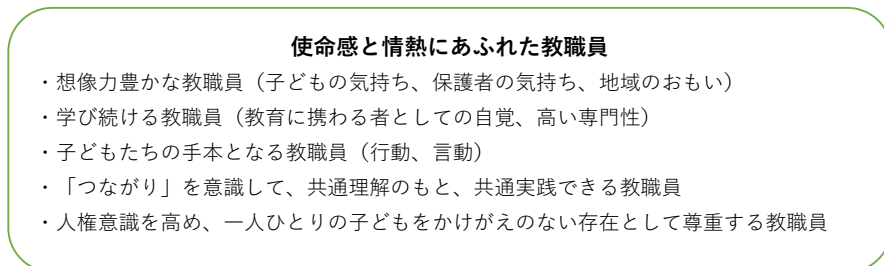
## ○学校教育目標

よりよく生きるために、自ら考え、行動する子  
～「たて」と「よこ」のつながりを大切にした朱一教育～

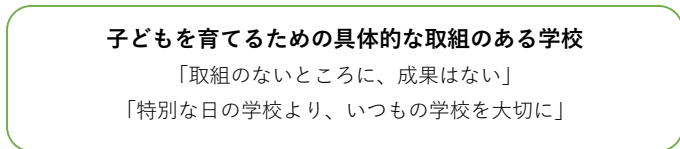
## (1) 目指す子ども像



## (2) 目指す教職員像



## (3) 目指す学校像



## (4) 今年度の重点

○授業で子どもを育てる。～授業こそ学校教育の柱～

◆すべての子どもの学力を向上させる。

「わかる授業」は、子どもとの信頼関係を深め、子どもへの最大の教育的援助である。  
家庭環境にかかわらず、すべての子どもの可能性を最大限に伸ばす。

◆学級集団から学習集団へ

皆で学ぶ意味や良さが実感できる授業づくりにより、学習集団へ高める。

- ◆子どもの力で子どもを育てる。  
授業の中で意見交流や練り上げのための話し合いの場面を位置づける。
- ◆学びのプロセスを大切にする。  
学習したことの価値や意義を自ら確認できる授業展開（ふりかえり・まとめ）  
学んだことをアウトプットする場面を設定する。

○つながりの中で育てる

- ◆学級経営から学年経営へ  
学年すべての子どもを担当しているという意識へ（学年担任制への移行期）  
多様な集団での学びを（課題別グループ、習熟度別グループなど）
- ◆異年齢のつながり  
上級生は、下級生にとって見本となるように行動し、学校をよりよくするためのリーダーシップを発揮する。  
下級生は、上級生のよりよい姿にあこがれを抱き、学校をよりよくするためのフォロワーシップを発揮する。
- ◆地域、社会とのつながり  
生活科や総合的な学習の時間、伝統文化体験などを通して、地域の方との交流を図る。  
「社会に開かれた教育課程の実現」に向け、学校運営協議会やPTAを活かした学校づくりの推進
- ◆中学校や保育所・幼稚園など就学前施設とのつながり  
小中9年間を見通した「よんきゅう絆プロジェクト」の推進  
「架け橋プログラム」を基にした就学前施設との連携、交流の促進

「たて」と「よこ」のつながりを大切にした教育実践

（編み込む主体は、「子ども」「教職員」「家庭」「地域」）

